

## 打合せ・協議会等会議録

1	会議名称	第4回朝日村行政改革推進本部会議・幹事会 会議録
2	開催日	令和2年12月23日(水)
3	開催時間	午前9時30分～午前11時50分
4	開催場所	朝日村役場 大会議室
5	出席者	別紙のとおり
6	委員会構成	参照：別紙名簿
7	会議内容	下記のとおり
8	会議録(概要)	下記のとおり

### 1 開会(塩原総務課長)

それでは、皆さんお集まりになりましたので始めます。ただいまより第4回朝日村行政改革推進本部会議を開会いたします。

はじめに、小林村長からあいさつをお願いします。

### 2 あいさつ(小林村長)

おはようございます。今日は色々よろしくをお願いします。職員の皆さんもじっくり読んでいただいたか分かりませんが、読めば読むほどいよいよ村民を巻き込んだ施策となってまいりましたが、はたして本当に住民がついてきてくれるかという重いテーマになっております。

そんなことを踏まえまして、あまり事を構えすぎてもよくないと思いますので、徐々に事が進行していくような計画にしたいと思いますので、審議のほどよろしくお願ひいたします。

### 3 会議事項

#### (1) 朝日村行政改革大綱及び実施計画(素々案)の検討

塩原総務課長

それでは会議事項に入ります。はじめに資料1、2につきまして、事務局から説明させていただきます。

事務局説明

塩原総務課長

ただいま、資料1、2について説明させていただきましたが、これについてご意見いただければと思います。行革大綱の素々案の冒頭、第1章から第4章第3節までいまま議論いただいているところでございますが、それについて、全体でも構いませんが、ご意見ございますか。

失礼ですが、こちらからご指名させていただきます。増原先生ご意見ございました

らお願いいたします。

#### 増原准教授

意見というよりコメントですが、13 ページにてミドルアップダウンについて示されておりますが、これが機能するためにはやはり権限移譲が必要になるのではないかと思います。いわゆるトップダウン型の権限移譲がないままに色々とやってくれと言われても、下は出すはずありません。もしこれをやるのでしたら、やはりある程度下の方に権限移譲して、あなたの責任でここまでやって良いということをやらないと上手くいかないと思います。

#### 小林村長

ありがとうございます。トップダウンに慣れている者は、ミドルアップに非常に弱いということは感じております。私はここにいる課長は自分がどれだけの力があるのかということをもう一度再認識してもらい、もう少し明確にしていければと思いますので、良いコメントをいただけたと思います。

#### 塩原総務課長

いま、ミドルアップの話で、以前田中理事長からも塩尻市の係長への権限移譲についてお話をいただきました。そういったことも含めて感想等ございますか。

#### 田中理事長

全体を見ていて頑張っていると思います。いまお話がございましたが、まず16 ページの大綱の体系の感想となりますが、総合計画にあります基本施策4をベースとして展開されているのだらうと思います。拝見しまして、基本目標1につきましては、簡単にいうと組織と人、目標2は仕事の進め方、目標3は財政基盤、目標4は協働のむらづくりとありますが、こうしたときに目標2-2と目標3-2が公共施設の話だとすれば、これらをどこに置くのか、という点が私としては引っかかります。目標3にまとめるのもひとつの手だと思います。

また、政策についてはこれからまとめていくと思いますが、前回の研究会でもお話しさせていただいたとおり、公共交通網のような話が入ってくるのかこないのか、住民の皆さんにとってはだいぶ大きな要素となると思いますので、そのあたりの扱いをどうするのか考える必要があるかと思います。

それから、ミドルアップの話にいきますと、塩尻の場合ですが、今年の4月からになります。10万円未満の事業については係長が決裁者となる等、そういった形で下へ下へ権限を下ろしていつております。先ほど村長さんからお話がありましたが、そういう流れに自治体も来ているように感じています。

塩原総務課長

ありがとうございます。先ほど公共交通について行革での位置づけはどんなものかという話が出ましたが、担当課でなにかございましたらお願いします。

上條企画財政課長

公共交通の関係は村民からの要望が非常に大きい項目であり、毎回総合計画を立てるときには買い物の関係と公共交通が一番の課題になっております。その点から村民の福祉向上に向けた業務の改善というところに対して、公共交通をどうしていくかというものを位置づけていただければ、行革としての取組みも可能なので、検討できればと思います。

塩原総務課長

ありがとうございます。では、今後どのような形で位置づけをするかということについては検討していきたいと思います。

また、公共施設の関係が目標2と目標3にそれぞれあるということに関する整理は事務局から説明します。

事務局

先ほどご指摘いただきました、目標2-2と目標3-2は、公共施設あるいはインフラというハードで共通しているということで、柱を分けていることに違和感があるというご指摘でした。これを一緒にすることはできますが、現時点の考えとしては、目標2-2では現在使われていない施設を何とかして使っていこう、指定管理等をうまく活用していこうという、どちらかという前向きにうまくやっていこうというニュアンスが入っています。目標3では、どちらかというコスト削減ということで、いらぬならやめてしまおう、維持管理するにもコスト削減しながらやっていこうというすみ分けがあります。いずれにしても、いまあるものを有効活用していく、不要なものはなくしていくということではありますので、1つにしたほうが分かりやすいという気持ちもします。また、事務局で検討して分かりやすい形にしていきたいと思います。

塩原総務課長

ありがとうございます。そのほかご意見ございますか。

それでは、いま全体について説明させていただきましたので、基本目標ごとに説明とご意見等いただいて整理していきたいと思います。まず基本目標1につきまして、資料2、3を使って事務局から説明します。

事務局説明

塩原総務課長

これにつきましては、資料3に説明していただいた内容の詳細が載っていますが、そこに担当課が入っております。担当課ごとに懸念していること等ございましたら、各課から発表していただければと思います。

はじめに、基本目標1の質の高い行政組織の構築ということで、資料3を見ていただきますと、担当課がすべて総務課となっておりますので説明させていただきます。

総務課内容説明

塩原総務課長

この基本目標1のところ、なにか提案等ありましたらご発言いただければと思います。

小池副村長

人材育成基本方針は現在どのようになっているのでしょうか。

事務局

15年くらい前に国の指導に基づいて作られたものだと思います。現在も人材育成基本方針という方針自体は残っておりますが、それに基づいて実際にきめ細やかな研修等が行われてきたかといいますと、力不足であまりできなかったということがございます。今年度から係制となりまして、総務の仕事も明確に位置付けられておりますので、新たに人材育成基本方針の見直しを行いまして、それに基づいて職員の育成を行っていくという形で、今回計画に載せました。

小池副村長

先ほどお話いただいた権限移譲をどこかに組み込まなければいけないと思いました。目標1-3の組織改革の推進等に位置づけられればと思います。

塩原総務課長

権限移譲については、先ほど増原先生からもお話がありましたが、必要性の議論がされており、それについては副村長から具体的な取組みの中に文言としては現在入っていないですがどこかに入れたほうが良いのではないかというご意見でした。これについてはいかがでしょうか。

小林村長

入れてください。

塩原総務課長

ありがとうございます。目標の中のどこに入れれば良いかは事務局で検討したいと思います。またご報告いたします。

小林村長

ぜひ具体的に予算を確保して、提案制度をどういう制度にするか考えてほしいです。ちなみに、私は前の会社の提案制度で1位を何度か取ったことがあります。提案制度は非常に励みになりますので、ぜひお願いします。

増原准教授

何点かコメントがあります。目標1-2の人事評価制度という形で、令和2年度から実施されているということで、潮流として個々でやるのは流れですので、実施されていることは合理的かと思います。今回提案制度を導入されるとしたら、提案制度自体も人事評価に入れないと誰も提案しないという事態になります。提案制度で提案した人をどのように評価していくかということは、人事評価制度の中に早めに導入されたほうが良いのかなと思います。

また、ボトムアップ型の提案を実現したいのであれば、これを評価する仕組みをつくらないと誰もやらないということになってしまいます。人事評価制度の最大の問題点は、ややもすると、書いてないことをやらないという話になります。評価されないのであればやらないです。しかしこれは本末転倒な話でして、書いていないことでも村民の役に立つことであれば早急にやるべきだし、それをいかにしてやっていくかということです。人事評価制度を実施することが目的ではなく、人事評価制度によって成果を出した人、もしくは失敗したかもしれないけれどプロセスが間違っていなかった人をいかに評価していくかということが目的になってきますので、特にボトムアップ提案制度に関しましては評価に入れたほうが良いと思います。

あとは、今後人事評価制度がうまくいかなかったとき、理想的に言うと、下が上を評価する制度も入れるべきです。具体的に言いますと、中間マネジメントの方を下の人が評価して、ちゃんと理想的な村の行政運営を行っているのかということです。村長は選挙によって常に選択にさらされているわけです。上が下を評価するのであれば、下が上を評価しても良いと思います。人事評価制度を導入して一番大事な点は、評価された後に、改善につなげることです。あなたは今回、成績が悪かったですよと言われても、上がそう言ってそこで終わりでは意味がなく、本当であればそのあとにフィードバックをしてあげて、あなたはここをこうやったらもっと良くなるので頑張らましようという仕組みがあれば、更に良いと思います。そうしないと、一方的に評価され、何を改善していくべきか分からないという形になります。これをやると業務量が増えるので、運用が進みましたらお考えいただけるとよいのではないかと思います。行政職は評価しにくい分野ですので、少しでも殺伐とした雰囲気にならないように、そういったことを取り上げてみてはいかがでしょうか。

塩原総務課長

ありがとうございます。人事評価制度と提案制度、ボトムアップのリンクについて検討し、それぞれ記入をしていきたいと思えます。

他、ご意見等ございますか。

それでは、次にいきます。基本目標2について事務局から説明します。

事務局説明

塩原総務課長

基本目標2、村民の福祉向上に向けた業務の改善ということで説明いたしました。これにつきましては、各課にわたりますので、懸念される事項等を説明していただければと思えます。

各課説明

塩原総務課長

ありがとうございます。では、いま説明させていただきました基本目標2につきまして、ご意見ございましたらお願いします。

小林村長

基本目標2は非常に大きなテーマをいくつか挙げてもらっていますが、そもそも論で立ち返ると、役場の職員は現在50人不足ということで、人事異動について、ひとつの仕事に慣れる慣れないということがあり、適切な人員配置を非常にしにくい状況だとみなさん理解していると思えます。そこで、例えば職場が移った、仕事が移った場合に、個人間の引継書というものを発行して、業務内容の引継ぎの確認が村長まで回ってきます。引継書よりもっと具体的な品質の向上、効率化に向けた、個々の作業標準書というものは、あるのでしょうか。いわゆるOJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）とって、人から教わらなければできない仕事もあります。しかし、例えば戸籍を移動するときなどは、作業標準書というものがあり、その文書を読めば、システムの立ち上げからこういうことをやって、こういうことを入力して戸籍を登録する、抹消するというような、人から教わらなくてもできるような書類はありますか。

塩原総務課長

業務ごとにあるとは思いますが、様式はバラバラで内容の濃さもバラバラだと思えます。

小林村長

バラバラでもありますか。

塩原総務課長

基本、業務を引き継ぐときに、昨年の綴りも引継書だとすれば、あるにはありますが、その完成度はバラバラです。

小林村長

日常のルーチンワークの部分で、当然その書類を読む時間や自分でやってみることが必要ではありますが、人が変わってもすぐにそういう基本的な仕事がしっかりできているかというところが一番大事だと思います。そうでないと、業務の効率化、体制などとれないので、今度の提案制度からそんなところが標準化されていけば良いかと思いますが、組織横断的にどんな風にやっているのかというところはまた調べてもらいたいと思います。

塩原総務課長

他にございますか。

私から田中理事長にお聞きしたいのですが、住民福祉向上に向けた業務改善の冒頭になりますが、観光協会、アグリチャレンジセンターの位置づけが朝日村では難しいという話が挙がっています。その位置づけを明確にしていく必要がある中で、やっていくうちにこれは役所の仕事なのかどうか悩みながらやっているところがございます。そんな中、塩尻市にも振興公社、農業公社、森林公社と色々公社がありますが、行政との位置づけ整理についてお聞かせ願えればと思います。

田中理事長

現実にはきれいに分けることはなかなかできません。塩尻市の場合で申し上げれば、例えば観光協会はいま法人化をして行政とは独立したような形をとっていますが、当然に深い連携のもとに進めております。また、農業の関係も、農業公社ということで立ち上げておりますが、その主たる目的は、荒れてしまった農地を、いま豆を植えているところですが、なんとか使える農地にしていこうということが主眼でありますので、先ほど課長からもありましたが、これも本来JAさんでおやりになれば良いのですが、どうしても市からJAを通して農家さんという流れがあり、なかなか分けきれないのが現実でございます。ただ、そうやっていくとうまく動きが進まないものですから、塩尻市では公社をそれぞれ立ち上げてそれが原動力になって動かしていくというのが現実に塩尻市がやっているところでございます。

そんなお話がひとつと、全体の話として、まとめ方について研究会のときにもお話しさせていただきましたが、現在素々案ということなので、これから精査をされることになるかと思いますが、このままでいきますと令和3年度が大変なことになり、皆さ

んがすこぶる大変な年になってしまいそうです。もちろん色々な選択をされると思いますが、新規の緊急度が高いものだけを令和3年度に行い、あとは令和4年度スタートであるとか、この動かし方と、取組内容にKPIを書き添えているところもありますし、そういうところまで踏み込まず、矢印だけになってしまっているところもございますので、もう少し素々案から次に進む段階では、現実的に各課で令和3年度本当にできるところはどの辺かという見極めも必要ではないかと感じました。

#### 事務局

全体のことで言いますと、球出しが終わりかかっているという感じですので、こうなると次回はすべて公表するわけではなく、これは内部でしたためながら、優先順位をつけて、できるものから公表した中で推進していくということでやっていきたいと考えています。そのあたりはおそらく1か月くらいかけて精査していくこととなります。

#### 塩原総務課長

他にございますか。

では次にいきます。基本目標3についてお願いします。

#### 事務局説明

#### 塩原総務課長

それでは基本目標3について、各課の懸念事項をお話いただければと思います。

#### 各課説明

#### 塩原総務課長

この財政基盤の強化というところにつきまして、ご意見等ございますか。

#### 小池副村長

企画財政課長が一番心配されている人件費、物件費がだんだんと増大してきているという点で、行革の大綱にもあるように当然財政改革の大綱でもあるわけなので、固定費を抑える取組みを入れなければいけないと思いますが、そこで財政指標の目標設定と管理という項目はあるんですが、具体的な数値で制限をかけていくべきなのかどうか、それは真剣に考えていかなければいけないと思います。いまの基調としては、定員適正化計画やデジタル化を進めていけば、必ず人件費も物件費も上がるという基調になると思います。そうすると事業はどうするか、例えば不用資産を大胆に処分していき、コンパクトな村にしていくのか等を考えていかなければいけないです。財政指標をはめるかどうかはまた検討したいと思いますが、皆さんいかがですか。



#### 企画財政課長

以前も朝日村の財政状況ということで説明させていただきましたが、経常経費は毎年なにもせずにもかかってくる経費があります。その中で朝日村はどうしても下水道で繰り出しをしていた経緯がありまして、その分人件費、物件費で縮小してきました。これで人件費、物件費が伸びれば、全体的な経常経費が伸びていきますので、財政指標の目標をつくるとすると、全体的な経常収支比率を上げて良いとするのかしないのかというところが出てくると思います。経常収支比率を上げないとすると、やはり下水道の繰出金を減らすために住民負担を求めていくのかという議論が必要になってくると思います。経常的な経費といっても、扶助費は社会保障の関係で日本の法律に基づいてやるものですし、補助費は一時的な賦課金等でなかなか減らすことができませんので、調整するとしたら、やはり人件費、物件費、繰出金の3つしかないと思います。、人件費、繰出金を上げて財政を維持しようとするか、やはり下水道の負担金を求めていくか等の議論が必要になってくると思います。

#### 小林村長

財政の面で、いま企画財政課長が言った話ですが、それをもっとストレートに表現したほうが良いと思います。ようするに、歪な構造となっている職員数のことだとか諸悪の根源が良いか悪いかは抜きとして、下水道のことがあるが故にこういうことになったということを事実に基づいて、だからこうなったんだということが欠けていると思います。もう少し追記して、そういうことがあったから今こうなっているんだというところを補足説明し、その結果として歪な形の職員数や年齢構成になっていると説明した上で今後直していくべきだと。直していくべき理由としては、やはり人がいない故にやりたかった仕事もできなかった、または手間がかかってしまったということが、もし人の配置の面であるのだとすれば、少し苦勞してでも人員採用して、少し住民に負担が増えるかもしれないだとか、第3者が見てもわかるような組み立てにしておかないと、いつまでたっても下水道とばかり言っていられないので、いったんその背景の中でこうしていくという風に是非してもらいたいです。

#### 塩原総務課長

今回の行革の根本的なところで、現在朝日村の課題となっている根源の説明が欠けているのではないかというご意見がございました。

増原先生はそのご意見についてお感じになったところをお聞かせいただければと思います。

#### 増原准教授

色々と利害関係者がおりますので、今回外部の立場からすれば書けないなと思いがらお聞きしておりました。ただ、この背景を書かざるを得ないというところではあ

りますが、ここを何とかしないと人も増えないし、何よりも村民へのサービスがかなり低下するという事実はやった上での大綱であるということはどこかに入れても良いかもしれません。ですので、なぜそういうことをやるのか、特にインフラの管理構築とか不用資産等の処分等もそれに繋がっているんだという話だと思います。ですので、どこまで書くのかというトーンに関しましては難しいですが、事実は事実として、他市町村に比べてその辺が高かったというところで、人件費を抑えざるを得なかったのですが、今後は厳しいということで、その上での上下水道料金の値上げの話に繋がっていくと思います。

小林村長

量や深度は考えるにしても、やはり触れていかないとストーリーが組み立たないと思います。組み立つ程度に入れておきましょう。

増原准教授

皆さんのお立場からして書けない部分もあると思いますが、書くとしたら、難しいですが、第3章、第4章あたりですかね。

小林村長

最初の現状把握の話でこれだけインパクトが強く、新人が採用されなかった期間があった、そしてそれに対して人口1万人あたりの正規職員数は現実こうだと。結局これだけインパクトのある内容が頭に出てくるので、何故、と普通の人は思います。

塩原総務課長

田中理事長、行政の経験者として感想等お願いできますか。

田中理事長

いま増原先生からもあったように、かなりセンシティブな部分はございますが、あまりにも腫物のように扱うといまの議論が進まないの、私は当然書くべきかと思いますが、たしかにこの部分については村長さんの先ほどのご意見からすればそれなりに書いても良いのかなと思います。他の国民健康保険等、理事者側が最終判断するところは他の自治体でもあるかと思っています。そういうときも色々な情報を集めながら判断されると思いますので。

小池副村長

ありがとうございます。ただ、下水道がダメということではなく、朝日村では下水道を早くやって地域整備をしたけれど、村の特性として、集落が点在しているとか、人口、利用者が少ない中で、ただ設備はしっかりしたものを作らなければいけないということで、他の市町村よりは少し負担になっているということは事実かと思いま

す。そこを明確化することはしてこなかったと思いますので、お伝えし、財政的にも投入しているという説明が必要なのかなと思います。

#### 増原准教授

下水道の正当性を他市町村と比較すれば良いのかなと思います。導入時期が早かったとか、他市町村の設備に負けず劣らず、朝日村はすごく良いんだということをまず説明した上で、ただ、それが当然ながら費用にも結びついたという話ですね。我々は優先的にやって、それが村民のためになってきたということをまず書いてしまえば、腫物ではなくなります。ただ、時間が経って下水道にはそれなりにコストがかかるということは事実として書けばよいのかなと思います。そうすると、正規職員が少ないかわりに下水道は充実しているということを、他市町村比較をした上で、書ければよいのではないのでしょうか。

#### 塩原総務課長

ありがとうございました。いま皆さんからいただいた意見からいきますと、下水道等職員の関係については明記したほうが良いのではないかとということで、そこをどのようにどのあたりで記載していくかは関係部署と相談しながら事務局で案を作成したいと思います。

それでは、次にいきます。基本目標4の協働のむらづくりにつきまして説明をお願いします。

#### 事務局説明

#### 塩原総務課長

ただいま内容について説明させていただきましたが、各課で懸念事項等の説明をお願いします。

#### 各課説明

#### 塩原総務課長

ありがとうございます。塩尻市は協働を積極的にやってきたことが一般的に知られていますが、この協働につきましてご意見いかがでしょうか。

#### 田中理事長

いま、指針を作られるということですから、まずそこが一番大事かと思います。塩尻市の場合、昔は企画部門が協働企画部ということで、協働が頭についておりました。物事を進めるときには基本的にはNPO等の行政ではないセクションと一緒にやる等、外に出せないかと、当時はそのような想定でまず始めました。現在は協働という

言葉ではなく、共創という言葉に変わっているようですが、基本的な流れはそのまま引き継いでおります。総合計画をつくる時も、データの、統計的な数字によるエビデンスだけではなく、市民アンケート等を通して、市民の実感として、福祉的に住みやすくなった等の、いわゆる協働的な指針を出してやってきたところでもあります。

塩原総務課長

ありがとうございます。その他、協働の関係でなにかございますか。

百瀬教育長

職員数が減り、いまの状況の中で住民サービスの低下を防ぎながら、維持していくということを考えた時に、事業のスリム化とか重点化等がどうしても必要になると思います。そういう意味で、メリハリをつけた年度ごとの計画がどうしても必要になってくると思います。いまちょうど協働の話になりましたので、これからの動きはやはり村民の皆さんと共に、村民の皆さんの力を借りながらあるいは頂きながら、この村政、事業を動かしていくということはどうしても必要となってくると思いますので、そういう意味で協働の指針を考えてもらっているということは、とても良いタイミングで動いていると私は思っております。

教育委員会の取組みでコミュニティースクールの話がありましたが、次長の話にもありましたように、信州型、県の考え方からいま文科省の方向へ動こうとしているわけですが、そういった国の方針に合わせたコミュニティースクールに方向転換をしていく。それはやはり住民の協働の意識を高めていかないと、どうしても組織だけ出来上がって全く中身がない形になってしまいます。そういった意味で、今度指針をつくと同時に、村全体がこの協働の考え方で村民の意識を変えていくという、そここのところを一緒に考えていく必要があります。例えば学校で言えば、おらが学校をつくるということ、それから村の子ども達は村民の力で育てていくというような意識でやっていくことがこれから求められるのではないかと思います。そんなことを期待します。

塩原総務課長

ありがとうございます。他にございますか。

小池副村長

協働ということですが、形態ややり方が色々あるので難しいことだと思いますが、行政がやっていた仕事を住民の皆さんにどうしてもやっていただかなければいけないことがあると思います。それはそれでお願いしていくとして、もうひとつ、地域を元気にしていくという自発的な活動というものもどんどんやっていただければ良いと思うのですが、そこに少し行政が手を差し伸べる、補助をする等の形での協働もありかなと思っています。それが先ほど企画財政課長の言っていたきずな支援の関係等

で上手く誘導できればと思います。

もうひとつ、行政と住民をつなぐ役割というものを誰かが担ったら上手くいくのではないかと考えています。これは1例ですが、地域おこし協力隊のような方々が間に入ることが考えられます。地域おこし協力隊は、行政の職員という身分ではありますが、やはりフィールドは地域なので、そういった方々が地域に入り、課題を拾ってくるか、あるいは地域をまとめてくれるような動きにつながればと思います。集落支援員制度と重なってくるところもあるかもしれませんが、そういったところで少し頑張っただけなら良いのではないかと思います。ここに書き込むかは別として、そういった活動も必要かと思っています。

#### 塩原総務課長

ありがとうございます。ほかに協働の関係でございますか。

協働以外でも、全体を通しまして再度発言のある方はお願いします。

それでは時間も押しておりますので、全体を通して増原先生、田中様にご意見等いただければと思います。よろしく願いいたします。

#### 増原准教授

色々と作業等、おつかれさまでした。非常に充実した内容ですが、先ほども言われたと思いますが、これを来年度から一気に全部やるのはおそらくパンクしますし、そうすると行政改革に対してアレルギーと言いますか、いやな気持ちになると思いますので、やはり絞らざるを得ないかなと思います。単純にマンパワーが不足しているから仕方がないという形でやらざるを得ないと思います。ですから、いまやはりここで主幹課判断として緊急性が高い等に絞ってやっていくことが必要です。そして、やはり少なくともやっていて皆さんが少しでも前向きになれるものや、今やることによって将来的に楽になるもの、自分達や村民の皆さんがハッピーになることを優先的にやることをやっていただけたら良いかと思っています。このままやるとおそらくパンクしてしまいますので、お考えください。

#### 田中理事長

お話する中でだいぶ言わせて頂きましたが、いま増原先生からも発言がありましたように、スケジューリングをもう一度精査をされて進められたらと思います。ただ、こういうものができたということが、相当見える化と言いますか、今まで漠然としていたものだったものが形になって見えてきましたので、その面では大きく進んだということは職員の皆さんもお感じになると思います。これを素々案から素案、案にするまで、さらに職員同士がよくお話をしながら進めていければと期待しておりますし、なにかできることがあればと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

塩原総務課長

ご意見いただくのは最後になりますが、なにかございますか。  
では、事務局から今後の進め方等の日程について説明させていただきます。

### 3 (1) その他

事務局説明

小林村長

パブリックコメントだけでなく、ちゃんとした説明会のようなものが必要だと思います。ホームページに公開しただけで意見をいただいたことにするのは非常に問題があると思います。色々な人を集めて、肝を説明する場をぜひ検討してもらいたいです。

事務局

パブリックコメント以外の説明の場を検討いたします。

### 4 閉会（塩原総務課長）

長時間にわたりありがとうございました。  
それでは、以上をもちまして、第4回朝日村行政改革推進本部会議を閉会といたします。